



さいたま市（埼玉県）

埼玉県の県庁所在地であるさいたま市。人口 130 万人超を誇る政令指定都市である同市は、近年徐々に女性議員の数を増やしている。2015 年には 10 人だった女性議員の数が、2019 年に 12 人、2023 年 4 月の選挙後は 16 人となり、全体の 26.7% を占めるまでになった。女性の躍進が進む同市のこれまでの取組とは—？

大きな都市の小さな施設：さいたま市の男女共同参画推進センターとは？

政令指定都市の男女共同参画センター（以下、センター）というと、多くの人が想像するのは、大規模なセンターかもしれない。ところが、同市のセンターの規模は意外にも非常に小さい。市のセンター担当の播磨氏によると、センターの規模は政令指定都市の中で一番小さいくらいではないか、とのこと。センターは平日朝 9 時から夜 21 時まで、土日祝日も 17 時まで開館している。にもかかわらず、そこで働くスタッフは夜間や土日対応の要員も含めてわずか 10 人。常勤職員に限れば、その数は更に少なくなる（内閣府男女共同参画局の令和 5 年度推進状況調査によれば、政令指定都市の 1 センター当たりの常勤・非常勤職員の合計人数平均は 19.8 人）。

さいたま市のセンターは公設公営で運営されており、市の「人権政策・男女共同参画課」の部署の 1 つとして位置づけられている。業務が課内で細かく分割されていることもあり、センター単体で見ると、「他の大きな都市と比較して、予算が潤沢にあるわけではない」と担当者は感じている。

しかし、限られたリソースを駆使して、さいたま市は他にはあまり見られないユニークな発想の取組を実施している。それが、「女性の知恵で社会をデザインする講座」だ。

お話を伺った皆様（敬称略）

*肩書きは
ヒアリング当時

さいたま市議会議員： 稲川 智美
さいたま市人権政策・男女共同参画課
男女共同参画推進センター 主任：
川口 大勲
播磨 孝之



さいたま市人権政策・男女共同参画課
主任 川口氏（左）、播磨氏（右）

パンデミックから生まれた革新：女性が政治で輝くための無料講座

「女性の知恵で社会をデザインする講座」は 2020 年から始まった。講座が生まれたきっかけは偶然だった。2020 年と言えば、前年に発生した新型コロナウィルスが猛威を奮い、4 月には初の緊急事態宣言が行われた年。それまでは、芝浦工業大学と連携して、理工系の女性を育てるための体験型講座を対面で開催していたが、その実施が難しくなった。対面でなくともオンラインで実施可能、かつ女性の活躍が進んでいない分野は何かと考え、「女性の政治参画」に焦点を当てた講座開催のアイデアが事業コーディネータから挙がった。事業コーディネータは、センターが採用している男女共同参画に係る知見を持つ専門職員だ。

2020年、同講座の開始当初は、企画立案、講師選定、当日の準備等、全てセンターだけで担当した。講座の大枠は事業コーディネータが核となって作り上げた。講座内では、事業コーディネータによるジェンダー平等と女性の政策提言等についての基礎知識を身に付けるための講義の後、2016年に発足した「さいたまミモザの会（旧：さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会）」に所属する女性議員の方から、議員になったきっかけや動機、議員として大切にしていること等を話してもらう機会を設けた。最終的には、参加者各自の関心領域に応じて、調査・考察・取材等を行ってもらい、成果報告会を実施。その発表に対して講師ほか、女性議員、地元企業の人事・営業担当者や市職員からも講評をもらえるという内容の充実ぶりで、参加費はなんと無料。参加者の満足度も高く、以降内容を少しずつ改善し、毎年開催している。

表：女性の知恵で社会をデザインする講座詳細

年	2020	2021	2022	2023
形式	オンライン			対面
講座種別	講義+成果報告会	オリエンテーション+ワークショップ+成果報告会	講義+ワークショップ+成果報告会	
時間	YouTube配信の講義20分×3回+報告会	各2時間程度×4日間	各2時間程度×3日間+ブレセミナー(*1)	各1.5時間×8回
参加者数(*2)	女性市民10人	女性市民8人	女性市民7人	女性市民7人+埼玉大学学生19人(*3)

*1: 2022年はYouTube配信によるブレセミナーとして、三重大学名誉教授の岩本美砂子氏による講義を配信

*2: 参加者数は、最終的な成果発表会に参加した人数で算出

*3: 2023年は埼玉大学との連携プログラムとして実施したため、埼玉大学学生（男子学生含む）が多く参加

出所：さいたま市ウェブサイト及びヒアリング情報より本調査研究の調査チームが作成

直近の2023年は、新型コロナウィルスを巡る環境が落ち着いてきたことから、オンラインを対面に切り替え、埼玉大学との協働を開始。大学との連携プログラムにすることで、学生は、単位取得の対象となる授業として受講し、一般募集で応

募してきた様々な年代の女性市民と共に考え、成果を創り出す体験をすることができる。同様に、一般募集に応募して参加した市民にとっても普段接することが少ない学生や女性議員等と意見交換をする機会が得られる。参加した市民のアンケートには「議員や企業の方たちに講評をいただき、私たちの意見が届いた」「参加して大正解！」「また参加したい」というポジティブな声があふれる。



女性の知恵で社会をデザインする講座

出所：さいたま市人権政策・男女共同参画課より提供

2020年当初から、毎年講評者として参加している稻川智美市議会議員は語る。「同講座は女性が社会の中で感じているいろいろな課題に対し、どう対策するか、政策につなげていくかをテーマとしている。当初は、女性議員の自己紹介や政治の世界に入ったきっかけを議員各々が語り、講座参加者の政治参画への足掛かりになれば、と考えていたが、回を追うごとに、自分がどうしたいか明確な問題意識やテーマをもって参加する人が増えた。議員自身がすぐに参考にできるような政策提言も多い」まだ実現はしていないが、中には、将来女性議員になりたい、と考える参加者もいたようだ。「皆様、非常に熱心。女性の立場から社会を変えていきたい、という鋭い視点をもって提言してくれる方がいらっしゃるので非常に心強くなる」この言葉どおり、稻川議員御本人も、本講座から力をもらっている。



**女性の知恵で
社会をデザインする
講座@埼玉大学**

問合せ・申込は
パートナーシップ
さいたま



講師
・瀬山 紀子 氏 (埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授)
・NPO 法人レインボーサイトの会
・古川 晶子 氏 (パートナーシップさいたま事業コーディネーター)

NPO 法人レインボーサイトの会
パートナーシップ制度導入運動を埼玉県内に展開。2023年4月3日現在県内54自治体で制度導入

日 時：2023年6月19日・26日、7月3日・10日(全て月曜日)
10:40～14:30(昼休憩1時間)
会 場：埼玉大学(さいたま市桜区下大久保255)
参 加 費：無料
対 象：市内在住・在勤、または在学の女性で全日程参加できる方
定 員：20名
託 児：生後6ヶ月～未就学のお子様 5名程度
申込方法：5月10日(水)～31日(水)申込フォームで受付
詳細を HP にて確認のうえ、お申込みください(過去の実施報告書も掲載しています)
<https://www.city.saitama.jp/006/010/002/004/p0966985.html>

女性の知恵で社会をデザインする講座（2023） リーフレット 出所：さいたま市ウェブサイト

つながりを活用する

これだけ多くの関係者を巻き込み、充実した内容の講座だが、かかった費用は講師謝礼金等のみでなんと 10 万円以下。では労力面ではどうか。企画立案、講師選定等、様々なステークホルダーと連携していくに当たっての関係構築や調整に非常に労力がかかりそうだが、センター担当の播磨氏、川口氏の両氏によると、普段から築いてきた関係を活用している、とのこと。

例えば、2023 年から連携し始めた「埼玉大学ダイバーシティ推進センター」とは、センター長であった田代美江子教授が、市の男女共同参画推進協議会の委員であることから、普段から接する機会が多く、その話の中で、講座に関して連携する話が持ち上がった。講座開始当初から協力してもらっている「さいたまミモザの会(旧:さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会)」も同様で、議会や議会以外の場でも、男女共同参画に関する政策等についての問合せにセンター職員

が答えたり、意見交換をしたり、という関係性の中で、講座への協力依頼もしやすかった、とのことだ。

センター自身のリソースに限りがある中では、外部のリソースをいかに見いだし、活用させていただくか、が充実した講座開催に当たっての大きなポイントとなる。普段から大学や企業、連絡会等とつながりを作っていたからこそ、魅力的な講座を実施、発展・継続させることができた。播磨氏と川口氏はこう語る。「例えば、講師選定は講座を企画、準備するに当たって非常に重要なポイントだが、非常にハードルが高い点もある。講座を大学の授業の一環として講師をある程度確保できることからも、大学と連携させていただくというのは非常に有り難い。企業や大学等、外部と連携しつつ取組を進めていくことは今後ますます重要になってくると考えており、そこは一貫して進めていきたい」

女性議員がつながりを深め、変革を導く

つながりを築くことは簡単ではないが、その事例の 1 つとして、前述した「さいたまミモザの会(旧:さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会)」の取組を紹介したい。女性議員の間で勉強会や視察をしたい、という意見は 2016 年の発足以前より存在したが、会派を横断した女性議員同士の横のつながりも少なく、なかなか実現しなかった。それが 2015 年の市議選後、会派を超えて女性議員全員で政策提言をしていく、という空気が生まれ、超党派の「さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会(現:さいたまミモザの会)」が誕生。会への参加は任意だが、女性議員全員が参加している。

発足以後、研修や視察等を年数回実施。研修は年に2回、視察は年に1回を目安に行うことを申し合わせている。研修に招く講師に支払う謝礼金等は会員議員から徴収する年会費から捻出されている状況だが、議員の熱意に後押しされる形で、申合せ以上の回数を実施するほどに、活動は活発だ。

女性だけの団体を創るということに関し、男性からの反発がなかったわけではない。このような会を立ち上げるのも初めてのことと、「『女性活躍を推進する』というテーマで仮に公式な女性だけの委員会を立ち上げたとしても、理解を得られる土壌はなかっただろう」と稻川議員は当時を振り返る。どういった形で進めることができ正解か分からぬ中、まずは政策提言につなげていける横のつながりを作ろう、最も取り組みやすい形としよう、ということで選択した形式が連絡会だった。

研修や視察には女性議員だけでなく、男性議員、市職員、外部の一般市民の参加も受け入れた。連絡会ができたことで、当初目的としていた女性議員同士の横のつながり以上の収穫があった。例えば、稻川議員自身も、元看護師という経歴と人脈を生かし、連絡会で実施する研修に講師を紹介したことがあるが、こうした議員個人が持つ有識者らとのつながりが、研修の講師依頼等をきっかけに更に別の議員等へと広まり、ネットワークが生まれることもあった。また、同じ研修に参加することによって、市職員とのつながりも深まり、市職員とともに研修テーマに関する共通認識を持つことができ、政策にそれを反映していくこう、いう流れが生まれたと稻川議員は語る。



さいたま市議会 稲川議員

そして「女性活躍推進議員連盟」の設立へ

連絡会ができたことで多くのつながりを築いた一方、任意団体である連絡会の形式では、会として議会の場で公式の政策提言ができないというデメリットもあった。連絡会として地道に活動を続ける中、市議会の男性議員の中にも次第に女性活躍推進に関して課題意識を持つ者が増え、2023年の選挙後、江原大輔議長の提案で、「女性活躍推進議員連盟」が立ち上がった。連盟には全議員60名中54名が参加。女性議員は全員参加している。

「議員連盟は連絡会とは違い、準公的な組織。連絡会では実現できなかった事業運営・実施、女性の活躍を推進するための政策提言が可能となった。現在は、『市の女性が働きやすい環境づくり』をテーマとした事業を市と協働で準備している。議員連盟という準公的な会となったことで、市も一層協力的になった」と稻川議員は語る。議員連盟設立を受けて、「さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会」は「さいたまミモザの会」と名称を変更。準公的な議員連盟と自由な連絡会。それぞれで役割が異なるため、当面は2本立てで進めていく予定だ。

未来へ…女性議員を増やすために

女性議員比率がさいたま市で急伸している背景について稻川議員に個人的な御見解を伺ったところ、「社会情勢」という言葉が出てきた。政治の中で、ジェンダーギャップを無くしていこうという動きはどの政党にもあり、党によっては新しい候補は女性に、という空気もあるという。とはいえ、こうした空気だけではなく、女性本人の政治参加への意志は必要だ。「今増えている女性議員は皆自分の意志で政治の世界に出ていていると思う」と稻川議員は語った。

女性議員を増やしていくために必要な取組について、稻川議員はこう語る。「私たちが皆に認められる活動をすること、そして女性議員がいることで、市民に対する政策が、よりきめ細やかに良くなっていくということを市民が実感できることが必要だと思う。そのために、女性の政治参画をもっと促していくことが大切だと思っている」

取組概要 人材育成

女性の知恵で社会をデザインする講座

- 取組主体：人権政策・男女共同参画課 男女共同参画センター
- 実施体制：男女共同参画センター職員、2023年は埼玉大学と連携
- 取組時期：2020年から毎年1回開催(2020年～2022年はオンライン、2023年は対面開催)
- 予算：10万円/年以下(講師謝金等)
- 成果・実績：女性の政治参画促進(実際に議員になりたいと言う参加者の声あり)

STEP 01
課題発見
どうやって
気づいた?

新型コロナウィルス感染症の流行がきっかけ

- コロナ禍の中、それまで実施していた理工系女子育成のための体験型講座の対面実施が難しくなったことがきっかけとなり、オンラインで可能かつ女性が少ない分野に関する講座について検討したところ、「女性の政治参画」をテーマとした講座のアイデアが浮上、課題認識した。

実施体制構築

- 男女共同参画の知見もある事業コーディネータを核として企画・構成等を立案。カリキュラム大枠構成はワークショップ形式かつ4日間。
- 政治分野での講座企画及び成果報告会の講評について、さいたまミモザの会(旧:さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会)に協力依頼。普段からさいたまミモザの会とは議会や議会以外の場でつながりがあり毎年協力を得ることに成功。

大学との連携

- 2023年は埼玉大学の授業の一環としたことで、プログラム内容の企画面で教員の知見にも頼りつつ、講師選定についても大学と協働検討。

STEP 02
検討・準備
どうやって
進めた?

広報は様々な媒体を活用

- 広報はさいたま市ホームページやチラシ、市内の公共施設や図書館、公民館、区役所の情報公開コーナー等を活用。

STEP 03
実施
やってみよう!

規模や形式はニーズに合わせて徐々に改善

- 2020年開始当初はオンライン開催、YouTubeでのオンデマンド型配信講義が主であったが、2021年からは、リアルタイムでのオンライン講義に変更。また2023年は、埼玉大学との連携に伴い対面型へ。
- 2020年はYouTubeの講義も1回20分×3回と、短時間の講義であったが、規模を徐々に拡大し、2023年には1.5時間×8回のプログラムに拡大。



アンケートでは、高い満足度！

- 市民アンケートの満足度は高い。2023年は、4段階評価で全員が3以上、過半数が最高評価。

STEP 04
今後
この先の展望は?

過去の経験から改善点を見いだしつつ、大学との連携を更に強化！

- 応募者が少ないことが現在の課題のため、時間設定、カリキュラム内容、今後の広報について見直しを検討中。
- 成果発表会等の結果や市民アンケートの結果も含める形で実施報告書を作成。次回の改善に活用。
- 2024年からは講座の埼玉大学での単位を1単位から2単位制に拡大する方向で検討中。

取組概要 その他

さいたまミモザの会（さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会）

- 取組主体：さいたま市女性議員
- 実施体制：上記の連絡会に所属する女性議員
- 取組時期：2016年から現在
- 予 算：会員が年間5,000円を会費として負担
- 成果・実績：女性議員同士の横のつながり強化。講師や市職員とのつながり強化。課題意識の共有。



選挙後に新しい風：女性議員全員で協力しよう！

- ・2015年選挙後に、会派を超えて女性議員全員で政策提言をしていく、女性議員同士で協力しよう、という空気が生まれた。後に、さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会会长となる添野ふみ子議員から設立について提案があり実現へ。

団体形式の検討：賛同を得られやすい最も取り組みやすい形で始める！

- ・政策提言につなげていける横のつながりをつくるため、最も取り組みやすい形として連絡会という任意団体の形式で会を設立。会員は女性議員のみ。

運営方式の検討：会員主体の運営に

- ・研修及び視察のテーマ設定・実施準備・運営ともに女性議員が担当。
- ・研修講師の手配や視察計画・調整には、会員個人が持つつながりを積極活用。
- ・研修講師への謝礼金等は、会員議員から徴収する年会費から捻出。



参加者は女性に限らず幅広く設定

- ・参加者は会員に限定せず、男性議員、市職員など、テーマに応じて設定。勤務後でも参加しやすいよう、夕方の開催がメイン。



まずは女性共通のテーマ設定から開始

- ・当初のテーマは「女性の健康」。女性共通の話題であり、さいたま市でも産前産後ケアを取り入れたいという希望が出ていたことも影響。
※連絡会での勉強会や視察を経て、議会や委員会でも関連質問が出るようになり、産後ケアがさいたま市で取り上げられるように。

研修・視察の実績！

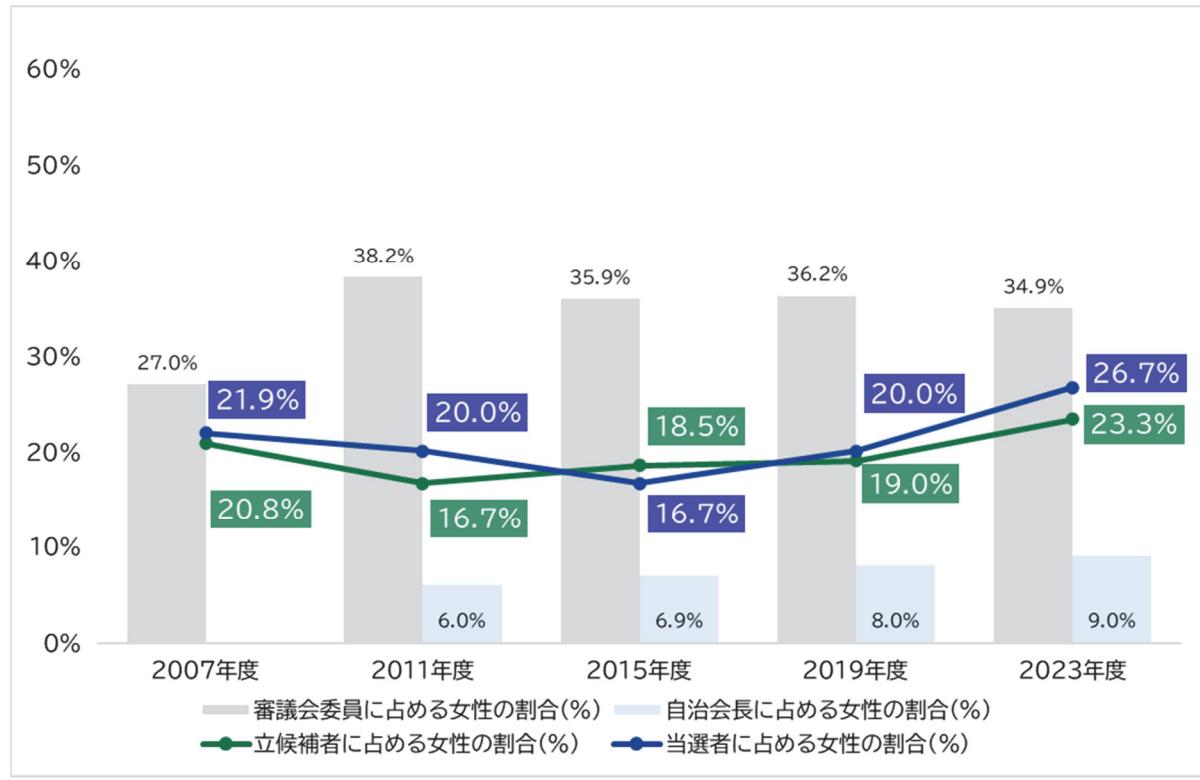
- ・会員のほか、毎回10名程度の男性議員の参加有り。
- ・市政運営に関するテーマでは、市職員の参加多数。
- ・議員同士、市職員、講師の方等との関係やつながり強化、関係者間での課題意識の共有が可能に。

「女性活躍推進議員連盟」と2本立てで当面は継続

- ・2023年に「女性活躍推進議員連盟」が設立。議員連盟設立により、連絡会では実現できなかった事業運営・実施、女性の活躍を推進するための政策提言が可能となった。
- ・同議員連盟の発足を受けて、さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会はさいたまミモザの会へ名称を変更し、自由な連絡会として継続運営。学んだ内容は、個人で一般質問等へ活用。



女性の地域参画・政治参画の推移



出所：アンケート回答、内閣府ウェブサイト「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（都道府県・政令指定都市編、市区町村編）」（各年度）、選挙報道情報を参考し本調査研究の調査チーム作成
2007年度における自治会長に占める女性割合について、割合不明のため、記載していない。

《さいたま市基本情報》

総人口：1,344,703人（2024年3月1日）

男性：666,117人

女性：678,586人

世帯数：640,643世帯

地勢：総面積約217.43km²、埼玉県南東部に位置する政令指定都市。

出所：さいたま市ウェブサイト



参考情報

・パートナーシップさいたま（さいたま市男女共同参画推進センター）：

<https://www.city.saitama.lg.jp/006/010/002/>

・女性の知恵で社会をデザインする講座（2023年度報告ページ）：

<https://www.city.saitama.lg.jp/006/010/002/008/010/p098879.html>